

「こどもっチャ!商店街」事業

職業体験を通して子どもの労働観・職業観を育むとともに
子どものパワーで商店街の活性化や魅力向上を図る試み

かつては街の象徴であった駅前商店街が、各地で苦戦している。往時の賑わいを取り戻そうと、さまざまな取り組みが見られるなか、子どもたちの職業体験をひとつのきっかけにしようとしているのが、JR徳山駅のある山口県周南市で試みられている「こどもっチャ!商店街」である。勤労感謝の日、徳山商店街には主役となる子どもたちの元気な声飛び交った。

子どもが主役の商店街に変身する
「こどもっチャ!商店街」

少子高齢化が進むなか、いわゆるニートや引きこもり、フリーターや早期退職者の増加、若年層の労働力人口の低下などが深刻な問題となっている。これらを解決するひとつの方策として、小学生段階から職業体験学習などを通して、働くことの楽しさや喜びを体感することが必要だと思われる。

一方、働く現場のひとつともいえる地方都市の駅前商店街などでは、来店客の減少や後継者不足などによって空き店舗が増加し、シャッター通りと呼ばれるような状況が生まれ、これらがいつそ街の活力や魅力を低下させている。

商店街が置かれているこうした状況を少しでも改善し、また、多様な事業者をはじめ、地域の大人が連携して、子どもたちに職業体験の機会や場を提供するなかで労働観や職業観を育み、さらに、子どもたちの生き生きとしたパワーで商店街の活性化を図ることを目的に開催されているのが、「徳山商店街が1日限定で子どもが主役のまちに変身!」をコンセプトに掲げる「こどもっチャ!商店街」である。

このイベントは、周南市内の小学生が参加対象(1職業体験につき参加費500円)で、徳山銀座商店街を中心とする徳山商店街一帯を会場に、実際の店舗や特設会場・ブースなどで子どもたちが店員や社員となり、販売や接客などを体験するというもので、労働の対価として、会場内で使える通貨(Moccha!: モッチャ)を200 Moccha! 受け取る仕組みとなっている。

2010年度にスタートし、2014年11月23日(勤労感謝の日、いいファミリーの日)の開催で5回目となった。当日は、のべ791人の子どもが78の職業を体験し、協力事業所数は85(うち商店街39)、子どもたちの引率や会場整理にあたったボランティアは78人(うち中高生47人)という規模であった。参加した子どもたちへのアンケートでは、「楽しかった」95.5%、「まあまあ楽しかった」3.3%と



事前に学校を通して配布された「こどもっチャ!商店街」のリーフレット。参加店舗や仕事の内容が書かれている



1日限定の「こどもっチャ!商店街」となった徳山商店街



(上) こどもっチャ!ハローワークで、いくつのお仕事カードから当日の仕事を選択する
(下) お客様への対応など楽しげに仕事をする子どもたち

なっている。

実行委員会を中心に進められる準備と
浸透・定着を図るための取り組み

「天候にも恵まれ、のべ800名近い子どもたちに職業体験をしてもらいましたし、関連イベントなどを含め、多くの方々に会場に足を運んでいただきました。県内の長門市で行われている『ちびなが商店街』をモデルとして始めたのですが、商店街や地元企業、ボランティアなどの協力なくしては成立しえないイベントです。みなさまから、『子どもが一生懸命働く姿に感銘を受けた』、『来年もぜひ協力したい』、『社会貢献のいい機会をいただいた』、『貴重な体験ができた』といったお声をいただき、充実感や誇りを感じるとともに、このイベントが地域に浸透・定着しつつあるという手応えを感じています」

そう話すのは、実行委員会事務局の上野貴史さん。商店街代表、まちづくり関係者、主婦、青年、市職員など約

担当者より



活動継続の課題である
資金の確保をはじめ、
助成が役立ちました

こどもっチャ!商店街実行委員会
事務局

上野貴史さん

第5回が実施でき、また用品類を整備できたのも、AJOSCならびに山口県遊技業協同組合からの共同助成のおかげです。また、当日もご来場いただき、実行委員一同感謝しています。年々、パワーアップしていきたいと思っておりますので、今後もご支援、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

20名、4部会から成る実行委員会は、毎年、4~5月に立ち上がり、反省会も含めれば10数回の会議を重ねながらさまざまな準備を行い、イベント当日に備えるという。全員が仕事をかかえてのボランティアだけに、大変な労力であることは間違いのない。なお、今回のAJOSCおよび山口県遊技業協同組合からの助成は、主にスタッフジャンパーや会場内看板の制作、事業費などに使用された。

「今年(2015年)も11月23日に第6回目となる『こどもっチャ!商店街』を実施する予定ですが、今後はボランティアとして参加してくれた高校生に早い段階から企画・運営に参画してもらったり、小学生自身が起業する店舗や事業を増やしたり、職業体験の受け入れが困難な店舗も参加でき、商店街の回遊性を高めるような要素も加味していきたいと思っています」と、上野さんは語る。子ども、大人、地域の連携がさらに深まることで、子どもたちの職業体験がさらに多様となり、加えて商店街をはじめとする地域の活性化が進むことが期待される。

山口県遊技業協同組合から

当日、会場に足を運びましたが、久しぶりに楽しいイベントを見させていただきました。子どもたちからフグ汁を購入しましたが、とてもおいしかったです。今後も組合を挙げて子どもの健全育成のお手伝いに取り組みで参りたいと思います。